

令和元年度第 3 回世界農業遺産等専門家会議  
新潟県佐渡市における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 個々の取組は良いが、それらの繋がりが弱い状況である。今後は、次項以降との関連も含め、全体のストーリーや体系的な繋がりを整理した上で、活動に取り組んでいただきたい。また、認証制度等の今後の展開目標についても検討いただきたい。
- 2 トキの定着数が確実に増えている点は素晴らしいが、「朱鷺と暮らす郷」の認証農家数が減少していることから、トキの定着が認証制度の実施による成果ではない可能性も考えられる。単にトキの定着数を評価するのではなく、世界農業遺産の取組との因果関係を整理し、取組の効果を評価していく必要がある。
- 3 トキの放鳥当初、トキは谷津田周辺に定着すると想定されていたが、実際は平野部により多く定着した。現在の「朱鷺と暮らす郷」認証制度はトキが谷津田周辺に定着するという前提で策定されているため、平野部の大規模農地では、畦畔の草刈りや冬水田んぼ等の要件を満たせず、認証取得が難しい状況となっている。  
今後は、平野部においてトキとの共生が継続するよう、既存のルールに縛られることなく、平野部の大規模農家が認証を取得できるような要件を検討するなど、実情に即した制度に見直しを検討されたい。  
なお、その際、平野部ではトキと共生するための取組、谷津田周辺では美しい景観の棚田を観光に活用する取組とする等、平野部と谷津田で異なる考え方が必要ではないか。
- 4 平野部に定着したトキと共生していくためには、平野部の水田環境を整備することが重要である。ドイツでは、ほ場整備に伴う農地の減歩により、ビオトープ等の生きものが生息する空間を整備している。このように、大区画ほ場整備と併せてビオトープ等を作れば、大区画ほ場整備と環境保全が共存する良い例になるのではないか。以上のような点も含めて、島全体の農業基盤整備の新しい方向性を検討されたい。
- 5 世界農業遺産の認定を通じ、地域住民が佐渡市に誇りを持ち、子供たちが将来も島に住み続けるための方策を考えることが重要である。そのための手段として、新潟大学や環境省も含めた多様なステークホルダーと連携し、人材育成について体系的に力を入れることが重要である。令和 3 年には世界農業遺産認定から 10 周年となるため、この機会も活用しつつ、さらなる連携強化や関係者間での協議を行っていただきたい。

(以上)